



大沼由紀舞踊公演

# Esponánea V

「フラメンコ、自然発生的な」

# Perenne

—悠久—

- Al baile (踊り) Yuki Onuma (大沼由紀)
- Al cante (歌) Mateo Soleá (マテオ・ソリア)
- Manuel de la Malena (マヌエル・デ・ラ・マレナ)
- Al toque (ギター) Malena Hijo (マレナ・イホ)
- Makoto Saito (齋藤 誠)
- A las palmas (パルマ) Ale de Gitanería (アレ・デ・ヒタネリア)
- Javi Peña (ハビ・ペーニャ)

- 振付・構成 大沼由紀
- 舞台監督 やまだてるお (有)モモプランニング
- 音響 山本祐介 (株)共立
- 照明 井上正美 (株)エクサート松崎
- 写真 川島浩之
- ビデオ撮影 竹下智也 (竹下智也写真事務所)
- 衣装 小高光江 ソニア・ジョーンズ
- 宣伝美術 秋山薫子
- 制作 塩川千尋
- 演出協力 佐藤浩希
- 招聘協力 (株)アルテ イソレラ
- 主催 プレーニャ

協賛:  セノビージャ・ハボン

後援:  日本フラメンコ協会  インステイトウト・セルバンテス東京

 スペイン大使館 Embajada de España

福島民報社

大沼由紀フラメンコ教室

*eStudio Breña*

生徒募集中

<http://www.yuki-onuma.com>

〔料金〕S席 10,000円  
A席 8,500円

〔場所〕なかのZERO川ホール

開場 19:00 開演 19:30

〔日時〕2018年 11月 2日(金)

Photo: 上河遼敦 撮影協力: ソニア・ジョーンズ

# 追いかける理由

小山雄二

Yuji Koyama

1984年、28歳でパセオ創刊。以降35年、他にやりたいこともないので地球唯一のこの月刊フラメンコ専門誌を出し続けている。月刊パセオフラメンコ編集長、株式会社パセオ代表取締役。永年にわたる舞踊家・大沼由紀の追っかけファン。

## ごあいさつ

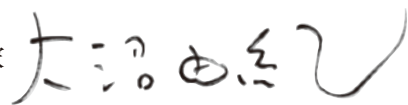
26年前、フラメンコを求めてスペインへ旅立った。マドリー、セビージャでの1年半ばかりは悶々とした日々を過ごし、その後ヘレスに辿り着いた時ようやく、これだ!と思った。ヘレスではそこかしこにフラメンコが生きていて、一人でいても寂しくなかった。まだ日本人が珍しい時代で、奇異の眼で見られることもあり、なるべく目立たぬようにフラメンコを覗いていた。通りを歩いていると「China! China!」と言って、細い目を真似してからかう子供もいた。そんな時は悲しかったり頭に来たりもしたが、自分が見つけた宝物があまりにキラキラしていたので、日本を懐かしむことすらなかった。

お金が底をついて帰国、なんとか踊り手として活動出来るようになり、スタジオも作り、そして2004年に私を魅了し続けてやまないヘレスから、名門ジプシーのアーティストを招聘して「Espontánea ～フラメンコ、自然発生的な～」を行った。フラメンコ特有の即興性を生かして、その時その瞬間に生まれるフラメンコを劇場で見せようというコンセプトだ。劇場公演になるとどうしても作り込んだ踊りを見せることが多く、そうなるとう完成度が高い作品に仕上がるが、フラメンコそのものの味わいが薄らぐのが嫌だった。ならばタブラオ(フラメンコ専門の店)でいいじゃないかということにもなるが、私は劇場空間で生きたフラメンコをということに拘りたかった。

きっと私の師匠である佐藤佑子先生が、旦那様であるギタリストのエンリケ坂井さんとやられていた「フラメンコの深淵」という、とてつもないシリーズの公演を目の当たりに見ていたことも大きいと思う。自分の信じる「これだ!というものを、こだわりのアーティストを招聘して劇場で公演する、それが無意識に自分の目標になっていたのかもしれない。

今回はマテオ・ソレアというフラメンコの歴史を生き抜いた歌い手を筆頭に、「Espontánea V」に相応しい重厚なメンバーとなった。果たしてこの中でどんなフラメンコが現れるのか。舞台上も客席も一体となって、その時その瞬間に生まれるフラメンコを味わい尽くすことが出来れば、本望です。

フラメンコ舞踊家



「ほら、これだけで充分じゃない?」

なんて便利!などと油断している間に、魂を抜き去ろうとする現代文明の悪魔性。そうした便利さの向こう岸に、ブレない存在感で人本来の素朴で逞しい生命力を呼び醒ます預言者。ステージで踊る大沼由紀は、生きる源点をフラメンコ経由でしなやかに差し出す。

ひと昔前、凄い凄いと玄人筋がこぞって太鼓判を押す謎のカリスマバイラオーラの舞台に初めて触れた衝撃はいまも忘れ難い。多くのプロ舞踊手たちが詰め掛けギラリ静まりかえる開演待ちの客席上空には、何かを予感させる黒いテンションが充満していた。そして大沼由紀登場と同時に魔はやって来た。鋭い痛みをともなうカタルシスを客席に残し、やがて魔は去った。

以来私は大沼由紀の追っかけとなった。だから例えばスペインの超一流どころの公演と彼女の舞台が重なる場合なども、迷わず由紀さんの舞台に駆けつける。なぜ私は彼女を追いかけて続けるのだろうか? そのこととフラメンコの専門誌を毎月出し続ける理由が、多く重複することに気づくのはずっと後のことだ。

好き嫌いを超え、真理を予感させる魅力的なエネルギーには強烈無比な引力がある。誰しもそんな存在を心に抱くものだが、私の心にもグレン・グールドのピアノバッハや、将棋の羽生善治永世七冠のアルテと同様な位置づけで大沼由紀のフラメンコは棲んでいる。

すでに国際舞台で活躍できるクオリティの舞踊家だが、だからと云って彼女のすべての舞台に飲んで共鳴するわけではない。彼女がフラメンコから大きく離れて独創表現に走る時、頼むからフラメンコに戻ってくれよと叫びたくなることもある。彼女に出演を乞うパセオ主催ライブの反省会で長々と討論するのが毎年

恒例だが、由紀さんはいつも実直に誠実に想いを語り、少しずつこの鬼才に対する理解は深まりつつある。

愛するフラメンコを踊ること、他方には敢えてフラメンコから離脱する独創表現。二律背反とも云い切れないこの二大ベクトルは彼女の中で互いに反発し合いながら共存している。両者は互いにせめぎ合いながら高め合っていて、それらはエロス(生の欲動)とタナトス(死の欲動)の関係によく似ている。そういう真摯な葛藤の危ういバランスの上こそ、唯一にして人並み外れた深化を追いかけることが出来るのだろう。

安易な近道を頑固に拒むそうした難行苦行の先に、いよいよ大沼由紀の独創表現が花開く可能性、あるいはフラメンコそのものと一体化してゆく可能性、さらにその両方を実現する可能性もある。だが彼女は、そうした結果を予め確定しようとはしない。なぜなら大沼由紀の本望は常に、手抜きをせずに今現在を丁寧に生きるプロセスそのものにあるのだから。

さて。人々の日常に大きな変化をもたらすであろうAI時代はすぐそこまで来ている。格差社会のひずみとともに、うっかり安易に生きれば人類は滅びる。そういう悲観に陥るとき、思わず渴望するのが大沼由紀のフラメンコだ。人は何のために生きるのだろうか? 彼女のステージにはその明快な回答がある。それらは底なしの苦悩に充ちているが、同じ分だけ底なしの歓びに充ちている。その痛烈なコントラスト自体に甘くはない生きる充実の確かさが宿る。大沼由紀の踊りに、この先もずっと喜怒哀楽を背負う人類の、決して暗くはない未来像が視えてくる。由紀さんはこう云う。

「その時に生まれたもの、嘘じゃないこと、自然なこと。それが最も素晴らしい、実は最も難しいってわかってる」

## Soleá de Charamusco (extracto)

Cuando yo a ti te conocí primo  
y era por la madruzá  
yo me partí mi camisa  
escuchándote cantá  
en Jerez de la Frontera  
era por la madruzá

Y qué bendición de hora  
que yo no sabía ni adónde estaba  
me tomé cuatro varrete  
del sentío prebelicaba  
y hasta que amaneció el día  
me fui borracho a la cama

チャラムスコ、酒を知ったのは  
夜更けのことだった  
酒の歌があまりに素晴らしくて  
俺は自分のシャツを腐ったんだ  
あれはヘレス・デ・ラ・フロンテーラの  
夜更けのことだった

なんて素晴らしい時間だったんだらう  
どこにいるのさえ分からないくらい  
俺は4杯飲んで  
最高の気分だった  
夜が明けるまで  
そして酔っぱらってベッドに縋り着いた

ソレア・デ・チャラムスコより抜粋  
日本語訳：穴路由紀



## Programa

1. Del Romance de Flores y Blancaflor  
(フローレスとブランカフロールのロマンスから)  
古い物語に誘われて、フラメンコが"絡まる"

2. Soleá de Charamusco  
(ソレア・デ・チャラムスコ)  
ヘレスのカンタオール José Loreto Romero "Charamusco" のソレア

3. Bulería  
(ブレリア)  
ヘレスの脈動

4. Trilla  
(トゥリージャ)  
赤茶けた大地に響く麦こぎ"歌"

5. Soniquete de la tierra y cante  
(ソニケテ・デ・ラ・ティエラ イ カンテ)  
土から湧き上がるリズムと歌

6. Tientos y tangos  
(ティエント イ タンゴ)  
重みのある火きなうねり

7. Soleá por bulería  
(ソレア・ポル・ブレリア)  
硬質な、そして凜とした

8. Cantiña y romera  
(カンティーニャとロメーラ)  
粹

9. Siguiriya  
(シギリージャ)  
暗闇から光

# Espontánea V Perenne

**José Galvez** ホセ・ガルベス

El flamenco no está sujeto a ninguna condición. El arte, el pellizco, la estética o la pasión no tienen pasaporte ni se pueden palpar.

Yuki Onuma, tras años de perseverancia en el mundo jondo, ha conseguido preservar la esencia y el respeto al cante, al toque y a la matriz enraizada con su baile. Todo ello se aprecia en su creación *Espontánea*. Aparte de su amor por Jerez, no está influenciada por ninguna corriente o moda, sino que, por lo contrario, se muestra en la escena tal cual es, permitiéndonos sumergirnos en su flamenquería al bailar.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Santiago, donde nace una gran parte de la historia del cante, tiene como principales arterias la calle Nueva y Cantarería. De ahí sale Mateo Jiménez Soto, más conocido como *Mateo Soleá*, el ejemplo más cercano de ese barrio. Su pureza y conocimiento de los estilos más señeros jerezanos lo convierten en uno de los pocos artistas que quedan, probablemente en peligro de extinción. Su sabiduría infinita y su gitanería son de lo más auténticas. Paco la Luz, Tío José de Paula, El Marruro, Juanichi el Manijero o Tía Anica la Priñaca aún viven en su voz. Esta reliquia de Jerez nos brinda siempre de su breña lo mejor y es para nuestros sentidos un verdadero honor y placer.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

De la confluencia del triángulo Jerez-Lebrija-Utrera, de la mezcolanza de sus cantes y de las familias gitanas que de sol a sol trabajaron sus campos, nacieron las casas cantaoras más sagradas. Es el caso de Manuel Moreno Carrasco, *Manuel Malena*. Su jerezana manera en el cante se pasea por ese triángulo, pues Lebrija y Jerez recorren sus venas por parte materna y paterna. Su voz gorda, rota, aguardentosa y directa nos remonta a los principios de la historia más flamenca.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Desde el legado que nos dejó D. Javier Molina Cundi el Brujo hasta la actualidad, en Jerez todavía se conserva la escuela del toque por excelencia, no en talleres ni academias, sino en los genes y en la transmisión que se hereda. El caso de Antonio Moreno, *Malena Hijo*, es el vivo recuerdo de sus ancestros en sus falsetas.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Makoto Saito es un guitarrista sensible y de singulares maneras, pues sus vivencias con flamencos, gitanos y payos, tanto en Madrid como en Sevilla y Jerez, han moldeado su toque y han hecho de él un tocaor que salvaguarda las formas.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Alejandro Fernández, *Ale de Gitanería*, y Javi Peña son el soniquete, el compás y la alegría. Sin el sonido de sus palmas y jaleos, sin sus acentuaciones con los pies no se identificaría el pueblo, pues ellos conservan el aire personal y único de Jerez de la Frontera.

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ、サンティアゴ地区の名門ヒターノ。幼少の頃からギタリストとして活躍、のちに歌い手となり、現在はギター・歌・作詞・作曲・編曲もこなす多才なアーティストとして世界中を飛び回っている。2007年EspontáneaIIIの出演アーティスト。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

フラメンコには決まりはない。芸術性、ペジスコ（フラメンコ独特の味わい。直訳すると“つねり”）美学、熱情…それらには国境もなければ、手に触れられるものでもない。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

大沼由紀は長年フラメンコのホンドと言われる奥深い世界に拘り、本質を保っている。カンテとギター、そして体内深く根付いた踊りへの敬意。彼女の舞台“エスポンタネア〜フラメンコ、自然発生的な”シリーズに、それらをすべて見て取ることが出来る。彼女のヘレスへの愛はよく知られたことだが、それはさておき、いかなる形や流行に影響されることなく、むしろそれとは反対に、ありのままを舞台で見せることによって、私達は彼女の踊るフラメンコへ深く入っていくことが出来るのだ。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

カンテの重要な歴史の一部を担うヘレス・サンティアゴ地区の主要な通り、カジェ・ヌエバとカタレリア。マテオ・ヒメネス・ソト“マテオ・ソレア”はまさにそこから出た、この地区の象徴的存在、申し子と言える。彼のプレサ（偽りなき純粋）とヘレススタイルの理解、それは彼を数少ないアーティストとして存在させるに相応しい。おそらくこれらは消滅の危機にさらされているのだから。彼のフラメンコへの深い造詣とヒタネリア（ジプシーならではの美学）はまさに本物だ。パコ・ラ・ルス、ティオ・ホセ・デ・パウラ、エル・マルーロ、ファニッチ・エル・マニヘロ、ティア・アニカ・ラ・ピニリャーカ…先人達が彼の声の中に未だ生き続けている。ヘレスの宝物である彼は、彼の奥底から最もいいものを私達に差し出してくれる。彼は私達にとって誇りであり喜びだ。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

ヘレスーレブリハーウトレラ、この三つの町を結ぶ三角形の合流地点では、それぞれのカンテが混在し、日が出て沈むまで畑で汗を流すジプシー達から、最も神聖な歌い手の家系が誕生した。マヌエル・モレノ・カラスコ“マヌエル・マレナ”がその例である。彼のヘレススタイルの歌はこの三角地帯に根付くものである。というのは、父方と母方がそれぞれレブリハとヘレスの家系で、その血が彼の中に流れているからだ。野太く、そして破壊力のあるしゃがれた声、真っ直ぐに突き刺さる声は、私達をフラメンコの極意へと導いていく。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

ドン・マヌエル・モリーナ・クンディ・エル・ブルホ（ヘレスが生んだ名ギタリスト。1868〜1956）が遺したものは、今もヘレスのギター演奏の中に守られている。それはアカデミアや養成所の中ではなく、家系や伝承の中に引き継がれている。アントニオ・モレノ“マレナ・イホ”のファルセータ（フラメンコギターの旋律）を開けば、そこに祖先の宝が輝き続けているのが分かるであろう。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

斎藤誠は繊細で独自の方法を持つギタリストだ。マドリー、セビージャ、ヘレスで、ジプシーと、そしてジプシー以外のフラメンコアーティスト達とも交流を持ち、共に時間を過ごして来た。その経験が彼の演奏スタイルを作り、しっかりとした根っこを持つギタリストとなり得たと言える。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

アレハンドロ・フェルナンデス“アレ・デ・ヒタネリア”と、ハビ・ペーニャは、ソニケーテとコンパスと、そして喜びそのものである。彼らのバルマの音色とハレオ（掛け声）、足で打ち出すアクセント無くしては、ヘレスのフラメンコを語れない。何故なら、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ独特の唯一無二のアイレ（空気・雰囲気）を作っているのは、実は彼らなのだから。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

日本語訳：軽部春海 大沼由紀 / 協力 David Taranco

## Perfil

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

**大沼由紀**  
*Yuki Onuma*

日本大学芸術学部卒業後、山川三太率いる銀テント「究竟頂」に入団。

退団後アスベスト館にて暗黒舞踏創始者・土方巽の教えを受ける。その後フラメンコに出会い佐藤佑子に師事。1992年渡西し、マドリッド、セビージャ、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラにて約2年半研鑽を積む。帰国後1999年東京・中野にエストゥディオブレーニャを設立。ヘレス・デ・ラ・フロンテーラより選りすぐりの名門ジプシーを招聘し、即興性に満ちたフラメンコを舞台上で展開する「Espontánea ～フラメンコ、自然発生的な～」は代表作。2016年の「EspontáneaIV」にて文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。2017年2月ヘレス・デ・ラ・フロンテーラにてソロ公演。また、鍵田真由美・佐藤浩希フラメンコ舞踊団作品「infinito ～無限～」「港に着いたくろんぼ」に客演、重要な役どころを演じ、新境地を開く。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

**マヌエル・デ・ラ・マレナ**  
*Manuel de la Malena*

1958年ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ生まれ。有名なラ・マレーナを祖母に、ロス・ネグロス・デ・ロンダを祖先に持つフラメンコの名門ファミリー出身。12歳の時、マイルレーナ・デル・アルコルのカンテ・コンクールで優勝。アントニオ・エル・ピバ、ラ・タティ、メルチェ・エスメラルダ、エル・グイート、マノレーテ等、数々の著名な舞踊家と共演を重ねる。踊りを支える貴重な歌い手として、スペインと日本を拠点に活躍中。

**マレナ・イホ**  
*Malena Hijo*

著名な歌い手、アントニオ・デ・ラ・マレナの息子として、幼少の頃より父の伴奏を務める。カンテ、踊りの伴奏に定評があり、ヘレスの注目の若手ギタリストとして、多くの歌い手、舞踊家と共演している。またフラメンケリアの一員としてアンダルシア地方を中心に巡演。日本には数十回来日している。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

**斎藤誠**  
*Makoto Saito*

13歳でエレキギターを始め、バンド活動を開始。1987年アメリカ留学後、フラメンコギターに転向。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

**アレ・デ・ヒタネリア**  
*Ale de Gitanería*

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

El canijo de Jerez, El Barrio, Los Makarines などの著名バンドのパーカッションistとして、スペイン全土、ヨーロッパなどを巡業し第一線で活躍中。その類まれなるリズム感でパーカッションistとしても活動しており、バルマの奏者としても、マリア・デル・マル・モレノ、アントニオ・レイ、ロス・チェロキーなどの著名な舞踊家、ギタリスト、歌い手と共演している。日本初来日。

**マテオ・ソレア**  
*Mateo Soleá*

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

ヘレスの名門ソト家に生まれる。18歳でギター界の重鎮マヌエル・モラオの一員としてデビュー後、マドリードのタブラオで活躍。マヌエラ・カラスコ、ラ・チャナ、アナ・パリージャ等の偉大な踊り手達の伴唱を務める。名盤「ヌエバ・フロンテーラ・デル・カンテ・デ・ヘレス」において、

ヘレス伝統のシギリージャを聴かせて愛

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

好家達を唸らせた。古いカンテに造詣が深く、ヘレスの伝統を守りながら

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

カンテ・ホンド(奥深い歌)を丁寧に味わい深く表現できる、稀有なアーティスト。現在はソリストとしてリサイタル、フェスティバルに出演し、最後の重鎮

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

の一人として活躍している。

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

【受賞歴】 Premio a la Mejor Siguiriya / Primer Premio a la

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Bulería - Feria de Jerez / Primer Premio en San Fernando /

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá

Espontánea V Perenne. Foto: M. J. Rodríguez

Primer Premio de la Soleá de Alcalá